

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成23年6月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100013号
法人名	社会福祉法人 佳成会
事業所名	グループホームてらやま
所在地	鹿児島県鹿児島市吉野町6581番地2 (電話) 099-243-8811
自己評価作成日	平成23年3月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑が多く、朝夕は小鳥のさえずり、そして天気の良い日は桜島の山肌が見えるほどの景観である。
朝のラジオ体操が日課で、日々の生活の中で利用者のスタイルで歩行ができるような自立支援への取り組みを職員と考えて行っている。
台所、食堂、居間が1つのフロアにあり見守りもでき、ホール全体明るさがある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市北部、自然環境に恵まれた閑静な高台の住宅地に建てられている。近くにはホームの名称にもなっている「寺山公園」があり、四季を感じながらのドライブコースに最適である。同法人は長年高齢者福祉の一端を担っており、他に特別養護老人ホーム・通所介護も運営し、職員育成にも力を入れている。離職が少なく、ホーム内に委員会を設置して勉強会も頻繁に行われ、質の高いサービスの提供が行われている。自己評価にも職員の真摯な取り組みが現れており、各ユニットごとの実施状況が明確に記載されている。
地域密着型ホームとして開設時より地域交流に努め、町内会にも加入し、ホームが孤立することのないよう地域との関わりを大切にしている。利用者も踊りで参加して楽しんでいる地域の夏祭り、毎年門松作りに訪れてくれる地域の方々、また、多数の近隣住民の参加もある消防訓練など災害対策の協力体制も構築されている。日常のケアも工夫されており、筋力の低下を防げるようにと居室から遠いトイレ・洗面所への誘導や職員のこまめな気付きで本人の出来ることを見つけ出し、徐々に自立に向けた生活が送れるように支援している。また、ホーム独自の3ヵ月毎の家族向けアンケートは利用者のサービスの質の向上に大いに活かされており、家族から率直な意見・提案が得られホームとしても大きな成果に繋がっている。
開設5年になるがマンネリ化することがないように職員はホーム独自の勉強会等で熱心に研鑽し、認知症ケアに前向きに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念があり、毎朝申し送り時に唱和し、お互いに共有して実践につなげている。	法人の理念「私どもの5つのS」と地域密着型サービスとしての意義を踏まえたグループホーム独自の理念を開設当初、職員全員で話し合っを作成している。職員は毎朝唱和し、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に出かけた折には、挨拶し合ったり町内会等の行事には進んで参加するようにしている。	開設当初より町内会に加入して利用者と共に地域の夏祭りへの参加や総会への参加など積極的に交流に努めている。また、毎年地域の方々の協力による門松がホーム入り口に飾られる。小中学生のサマーボランティアの受け入れもしており地域の子ども達との交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	2ヶ月1回の運営推進会議を通じ、また消防訓練等を行い、認知症の方と間近に接して理解していただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からいろいろな意見を取り入れてサービス向上に活かしている。	町内会長、民生委員、家族代表、職員、行政等の参加を得て2カ月に1回開催している。職員による各委員会からの報告やホームの行事報告、町内会からのお知らせ、意見交換などが行われている。	

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	8名の生活保護者が入所されており福祉課の定期訪問があったり福祉課又は地域包括支援センターに出向き情報収集に努めたり、入退院、入退所等報告している。空状況も連絡してる。	生活保護受給者もあり、毎月の報告や相談など、日頃より、協力関係を築くように連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し定期的にカンファレンスを行っているものの職員のさらなる周知に向けて研修会を開催するようにする。外部の方には、防犯や面会時の方についていく危険もあることから、玄関でインターホンを押して下さる様をお願いしている。。	身体拘束委員会が中心となって3ヵ月に1回定期的に勉強会を行っている。また、事例が出た場合等は随時検討会議を行って利用者の安全で拘束のない生活を支援している。日中は施錠などせずに外出傾向の利用者には職員がさりげなく着いて行き見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設け定期的にカンファレンスを開催し、職員の周知に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームでは現在必要と思われる入所者はいないが、行政との行っている研修会には職員にも参加してもらい報告し、職員と話し合いを設けている。		

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、重要事項契約書に沿って説明して、質問等に納得いくよう詳しく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は入所者が意見や要望を遠慮なく表出できるように働きかけ、困難な方からはその方の言動で汲み取るようにし、又3ヶ月1回アンケートを家族様へは送付し、出された意見や要望は職員で話し合いをし改善策を見出し運営に反映させている。	面会時や家族会・行事の機会を利用して家族から意見、要望を聞き出すようにしている。ホーム独自の無記名式のアンケートも実施しており、家族からの率直な意見・提案はサービスの質の向上に反映されている。アンケートの結果報告は全家族に行っている。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の法人内のリーダー会議、又ホーム内月3回のケース会議を行い意見の交換場としている。	毎朝の申し送りやノートの活用で職員は情報の共有を徹底している。また、月3回のケース会議は全員参加で利用者へのサービス内容についての意見・提案などが話し合われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット毎、毎日3人換算でケアに当たっており、ギリギリの勤務状況。体調不良等で休む職員が出ると補充に大変で日々のケアにも向上心があっても行き届いていない状況である。		

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>採用時、オリエンテーションを行い1～2ヶ月内部研修、そして機会ある毎に外部研修に出席しトレーニングしていくことを進めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉野地区のグループホーム「よかど会」が発足しているが昨年は7月1回のみ集まりで後がなく同業者との交流が少なくなり淋しい思いもしている。 他に何か機会はないものかと考慮中である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が今何に一番不安を抱き困っているのか、家族にも協力をいただき本人の安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が気軽にお話が出来、相談が出来る雰囲気を作り、面会時は気さくに声かけするようにしている。 細かなことも電話で報告したりしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の状況をお聞きし、今本人に何が必要な支援か見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に掃除、調理、食器洗い、洗濯物たたみ等をし昼食は同じテーブルでのんびりとした形をとれるようにしている。		

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活を近況報告したりスナップ写真を送ったり、又いつでも電話で話ができるように本人を支えていけるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒になじみの美容室や外出に出かけたりされる方もいらっしゃるが、だんだん面会も決まった方のみになってきているのが現状である。近況報告、行事への出席のご案内とかを送付したりして身近さを感じていただくようにしている。	家族、親戚などが訪ねやすいように配慮している。本人の希望により、自宅や墓参りなど連れていくこともある。また、日常、手紙や電話なども希望に応じてなじみの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士合わない方がいたり、別の方のいすに常に座ったりしてトラブルになりそうな気配を察し、均一に声をかけコミュニケーションがとれるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移動され退所になった方等、機会を作り面会したり年賀状などで挨拶をし気軽に立ち寄って下さるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	開所当初からの入所者も家族の面会の折、新しい情報をいただいたりして本人の要望等「気づきノート」に記録、職員間で話し合いをし入所者の思いや意向の把握に努めている。 家族への不満もある方等とはとにかくゆっくり話を聞いてあげる姿勢作りに努めている。	会話の中から思いや意向を把握し、困難な場合は表情、言動、家族や関係者からの情報などから本人本位に検討している。また、話を聞くことによって本人が落ち着くこともあり、職員はゆっくりとした雰囲気を作って傾聴している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時の後には必ず声をかけ兄弟の話、孫の話を聞いて今までの生活暦や生活環境を知る手がかりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	プランに沿い、本人のその日の心身状況を毎朝のバイタルチェック、食事、排泄、昨夜の睡眠状態を申し送り時に職員間で情報を共有して、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人ご家族の要望や職員の思い、気づき又主治医や専門医の意見を取り入れ、モニタリングは3ヶ月に1回もしくは見直し時期の2週間前に1回行い、変化が生じた時はケース会議で話し合い介護計画を作成している。	本人の楽しみとして定期的な家族の面会やこれまでの生活パターンを反映させた居室でのテレビ観賞など取り入れて本人本位の介護計画を作成している。こまめなモニタリングや気づきノートの活用で常に現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個人台帳に残し「気づきノート」を設け個々のケアの実践、結果、気づきや工夫を記録し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の送迎、入院時の早期退院へ向けての支援、入所者の健康管理、日々様子を見守りをし、早期の体調変化の気づき、早めの主治医への連絡相談、その都度家族へも連絡している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ町内会長、民生委員、地域包括支援センターとは意見交換が出来る。先日夜間に無断外出があり地域住民の協力がありパトカーで帰宅された方がいる。より一層、地域資源を十分に把握し、協働していけるように努める。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認し、本人家族の希望に応じて適切な医療が受けられるように支援し、協力病院の定期受診は職員介助、他科受診は本人家族の要望により臨機応変に対応している 受診結果は本人家族に報告している。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。ホームより受診同行を行っており、受診結果は家族に報告している。協力病院の定期的な往診もある。	

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今、ホームには看護職員の配置が遅れているが日常の関わりの中で情報や気づきを協力病院へ連絡相談し、入所者が適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	洗濯物を取りに病院へ出向き、本人と面会し又看護師に現状を聞いたりして情報交換し相談している。 又常日頃より病院関係者との関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応にかかわる指針」を作成し(1)急性期の医療連携体制(2)入院時の居室代等(3)看取りに関する考え方指針に沿って契約時に十分説明し早い段階から本人家族等と話し合いを行いかかりつけ医及び職員間で統一した方針を決め支援する。	重度化や終末期に向けたホームの指針を作成している。入居時にホームの方針を説明し家族の希望を聞いている。	指針は作成しているが職員体制など現状を見極めた支援のあり方を再度職員全員で話し合っ方針を共有することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルが作成しており、常日頃職員が見れる所に置いてあり、各自確認してもらっている。 又ケース会議で急変、事故発生時の想定をして訓練実践につなげている。		

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署の指導で消防訓練を入所者参加で行っている。非常時のサイレン設置、スプリンクラーも設置し誘導マニュアル、緊急マニュアルも作成している。夜間想定もホーム独自で月1回訓練実施、又非常時の備蓄も準備できている。地震等を考慮した訓練や地域との協力体制を築くようにしている。</p>	<p>年2回の消防訓練とホーム独自に様々な場面を想定した自主訓練を行っている。夜間訓練や職員の到着時間を計るなどもしている。また、スプリンクラーと非常時のサイレンも設置されている。今後は拡声機の購入も検討している。訓練には地域の方々の多数の参加もあり、地域との協力体制も築かれている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常日頃より利用者には敬語、入浴時は男性職員もしくは女性職員で臨機応変に対応、排泄時の声かけ、介助にはプライバシーを損ねないよう配慮している 難聴の方には近くでゆっくりと会話又汚染時さりげない対応に心配りしている。	声かけなど配慮しながら対応している。職員会議等で接遇やプライバシーについて勉強会をすることもあり、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな事にも事前にお話し、納得していただいてご自分で選んでいただけるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	午前中に就寝する人、居室でテレビを見る人、外の美容室へ行く人、各入所者のその日のリズムパターンを大事に希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	基本的にはその人らしい身だしなみ、おしゃれを大事にしているが認知が進行しそれを行えなくなっている入所者へはそれなりの介助をしている。美容は当ホームで行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食事準備を出来る方も少なくなりフライ等をする時の下ごしらえの手伝い、片づけが出来るとは行うようにしている。一緒に楽しく食事が出来ている。	片づけ、調理下ごしらえなど個々の力量に応じて職員と共に行っている。中庭を利用してバイキングを行ったり、ファミリーレストランへの外食を楽しんだりしている。ホームの畑の種まきや収穫も職員と共に行っている。また、マイお箸・マイ湯のみを使用し家庭での雰囲気を出している。	

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは法人管理栄養士が作成したものを参考にしている。 食べられない物がある方には代替、キザミ食等1人1人に対応している。 水分量1,000～2,000cc栄養摂取量は約1,200～1,300kcal食事、水分量は記録している。月1回の体重測定をし年1回の健康診断で栄養状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり声かけにて口腔、毎夜ポリデント洗浄消毒(義歯はずし行っている)義歯の不具合、口腔状態が悪い時、歯科往診の依頼をしたりと清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間はオムツ使用だが、昼間はポータブルトイレ、トイレでの排泄をしている。 見守り、半介助ではある。	排せつチェック表を作成して個々の排せつパターンを把握し、おむつの使用はしない方針で排せつの自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や乳製品を毎日摂取していただき、軽めの歩行又は排便困難時は主治医に相談して下剤コントロールになる事もある。		

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には週2回となっているが認知進行で入浴が決まった日に出来ない時があり、随時入浴が出来るように対応している。又入りたい方は毎日でもというように個々に応じた入浴の支援をしている。	在宅時の生活を考慮して午後の入浴を実施している。また、希望があれば毎日の入浴も可能で個々に応じた入浴の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく昼間の活動を促して夜間に気持ち良く眠れるようにしている。又昼食後30分～1時間位ゆとりの時間をもうけ、ゆっくりしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的、副作用、用法や用量について職員が理解できるようにしている。又診察時に薬の変更や追加等申し送り時に送り、記録に残して全職員が理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室掃除をされる人、読み物書き物に精出しされる人、縫い物をする人、新聞を読まれる人、手伝いしてくださった方には感謝を言葉にしたりして支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通して花見、ドライブ、ソーメン流し、紅葉見学、コスモス見学等計画し家族にも現地集合していただいたり協力し合い入所者皆さんが出かけられるように支援している。	ホームの周辺の散歩や希望があれば近くの大型店などへ買い物に出かけている。ドライブを兼ねて寺山公園に出かけたり、季節ごとに花見やソーメン流し、紅葉狩りなどにも出かけている。	

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者はほとんどが個人でお金を持たされていないがホームで預かり金がある方は欲しい物又外食等で使えるに支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状を出していただいたりご本人自らが電話したりできるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>カウンター式の台所、ソファリビングが1つのフロアになっており、全体が見渡せているフロア、廊下も広くて明るく又中庭も広くてベンチも置いてあり、いつでも入所者が座り、ゆっくり出来るようにしてあるフロア、トイレ、浴室、居室の掃除もこまめに行うようにしている。</p>	<p>共用空間は広くリビングから中庭に出られるので開放感がある。キッチンのカウンターが対面式なので見守りがしやすい。安全面を配慮して床はクッションがきいた材質を使用している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファの場所を決め、入所者同士が談笑されたり、認知進行の方も場所の確保が出来、安心した居場所の工夫をしている。</p>		

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、タンス、寝具類、テレビ、ラジカセ、仏壇、鏡台など使い慣れた馴染みの物があり本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンス、テレビ、仏壇、鏡台、化粧品など使い慣れたものが持ち込まれ、居心地良く過ごせる居室である。食後に居室でテレビを見ることが楽しみの利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室には、お花の表札やご自身の手作りの壁掛け内装も家族とご本人で決められ、又廊下には手すり、トイレには支援バーが取り付けられてあり安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホームてらやま 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない